

わかたけ

わかたけ158号
横須賀市立武山中学校
横須賀市武3-31-1
編集 PTA広報委員会
発行 平成28年12月15日



11月18日(金)晴天の朝、PTAの保護者の方々・市教育委員会の方々が集まり「おはようございます」「おはよう」の声かけに、子どもたちの「おはようございます」の返事、とても気持ちよい朝の一時でした。

朝の声かけ活動 (SST活動から)

今年度は、月曜日:教職員、水曜日:教職員と関係諸機関・地域関係者、金曜日:教職員・PTAの割り振りで行っています。

1月の活動を始めたころは、挨拶をしても何のリアクションもなく前を過ぎていく生徒たちが多かったのですが、徐々に交わせるようになる生徒が増えていきました。著なのは、朝のみならず日常の学校生活の中で挨拶ができる生徒が増えてきたことです。

これは、朝の声かけ活動の成果だと思います。ただ、「挨拶することが当たり前」という感覚が育っていない生徒がまだ複数いるので、粘り強く活動をしていきたいと思います。

校長 渡邊 克により

1年生、学校に慣れ大きな声が出てきましたね。2年生、誰よりも元気です。3年生、勉強疲れかな? 元気だして! 雨の日も、暑い日も、そして肌寒くなってきた今日も、いつも笑顔で「おはようございます」をお願いします!

会長 峯田 晃より



自主防犯
ボランティア

西地区青少年活動 ネットワークユースネット

月1回ユースネット会議



年2回ユースネットキャンペーン



週1回ユースネット広報車



年1回自転車安全教室



防犯ボランティア
西地区青少年活動
ネットワークユースネット

平成16年
結成
構成員数 30名
代表者 青池 禮子
主たる構成員の種別
地域住民
子どもの保護者
職域防犯団体
その他
・小中学校・林青推の会
・少年補導員・青少年指導員
・サポート隊・武青推の会

活動内容
防犯パトロール：徒歩 自動車
主たる活動の具体的活動状況
夜間パトロール
広報車による呼びかけ

ユースネットにおける 武中PTAの活動内容

- ・月一でユースネット会議に参加
⇒武山地域の小中高、地域関係者による防犯を主とした情報共有
- ・週一でユースネット広報車(軽トラ)で学区を回り、防犯を呼びかける。
⇒武中学区の小中学校PTAにて輪番で対応
- ・月一のユースネット夜間パトロールに参加
⇒武山地域の公園、コンビニ等を夜間に1時間パトロール。
子どもへの声かけ、110通報、ごみ掃除等。
- ・年2回のユースネットキャンペーンに参加
⇒エイヴィ・Aコープにて、防犯情報発信活動。振込め詐欺注意喚起のチラシ、ティッシュ等を配布し、利用客や通行人に注意を呼びかける。
- ・年1回の自転車安全教室に参加
⇒小学生向けの自転車教室。自転車交通ルールの座学と、実技訓練。講師である警察官の補佐、機材の設営撤去など。

西地区青少年活動ネットワーク活動

横須賀市武山地区を中心に、広報車を活用して少年の集まりそうな場所や深夜スーパーへの立ち寄り警戒を実施しているほか、生徒を含む学校関係者と「ユースネット会議」を毎月開催することで情報ネットワークを構築し、様々な事案にスピーディに対応できる活動を展開している。

平成24年度神奈川県犯罪のない安心・安全まちづくり奨励賞受賞コメント

月1回ユースネット 夜間パトロール



夜9時集合この日は
25人の教職員・P
TA・ユースネット員
さんが参加



近隣の小学校を
パトロールのつ
いでに教頭先生
にご挨拶



パトロール30分経
過し体も暖かくなっ
てきました

地域住民、ボランティア団体が管理 する地域安全安心ステーション事業 安全・安心のための自主的活動の拠点 としての3つの機能

①安全安心パトロールの出動拠点

公民館、消防団拠点等を活用した施設設備
自主防犯活動用資機材等の優先配備

②安全安心情報の集約・発信拠点

安全安心マップの作成
安全安心情報の掲示板の運営
防犯協議会の設置

③安全安心のための自主的活動の参加拡大 の拠点

地域住民が気軽に参加できる活動の支援
各種講習会、防犯指導等の利用、参加の拡大



武山中学校の生徒が制作したポスター掲示
・ロープ公園 ・一騎塚公園 ・林1丁目公
園 ・林2丁目公園



武山中学校 峯田会長より

会議では、不審者・空き巣・盗難などの防犯に関わる情報共有が主で、自転車安全教室やユースネットキャンペーンでは、小学生と触れ合いつつ、ほのぼのとした時間のなかで活動が行われます。

武中生を見守ることがユースネット発足理由であることから、武中PTAにとって夜間パトロールは大変重要な意義があると考えます。

しかしながらパトロールすれども、その多くが公園のごみ拾いで終わります。ただし、そのゴミには、タバコの吸殻や酒類の缶が含まれていることに注意が必要です。

中学生や高校生くらいの青少年が夜間にコンビニの裏、公園等で集合し、近隣住民や地域関係者に迷惑をかけている事実があることを、より多くの人に認識していただきたいです。

武中PTAとしては、先生・保護者が手を取り合い一人でも多く夜間パトロールに参加することで、武中生を見守る姿勢を貫いて行きたいと思えます。

防災特集

～地域と連携した防災～

今年は4月の熊本地震(最大震度7)・10月の鳥取中部地震(最大震度6)と大変大きな地震に襲われ続けた日本列島。いずれも左右に横ずれの見える断層型です。そしてこの武山地区にも断層が走っているのをご存じでしょうか？

つい先月には、東日本大震災の余震による津波被害がありました。どんな災害であっても避難はします。また避難の際には地域との連携や助け合いが大変重要になります。そこで広報誌でも地域と学校の防災活動について知っていただく為に情報発信をしてみようと思い特集しました。子どもの防災訓練に参加した事ありますか？この広報誌を見て少しでも地域や学校の防災に興味を持っていただき、家庭でも役立てていただきたいと思います。

p4 防災訓練概要紹介

p5 校長先生へのインタビュー

p6 地域の想い紹介

p7 まとめ

まずは、7月と9月に実施された防災訓練の概要を紹介します。

「地域連携防災デー」 7月1日に実施

(事前に5月21日に地域懇談会を実施)

- ① 各教室にて防災学習
- ② 避難警報発令
- ③ グランド避難 煙体験をしながらクラス単位でグランドへ。
- ④ 消防署よりの講評 避難行動に対して評価していただきます。
- ⑤ 実演指導(消火器体験) クラスの代表者が水入り消火器で消火体験します
- ⑥ 消防車による高所救助の見学 校舎屋上からの救助活動を見学します。
- ⑦ 町内会ごとに集団下校 町内会の方々と共に自分の地域へもどります。
- ⑧ 各町内での防災学習 町内の方のお世話になりながら地域の防災を学びます。



煙体験



消火器体験



はしご車救助見学



各町内での活動



「武山連合町内会 防災訓練・避難所運営訓練」 9月24日に実施

- ① 町内会ごとに一時避難地に集合 各町内ごとに指定されています。(ご自分の避難地を確認しましょう。)
- ② 広域避難所へ集合 今年度は武山小でした。毎年変わります。
- ③ 学年単位で行動

1・3年生は中学に戻り防災学習と通常授業

2年生は武小に残り訓練(体育館での避難所運営・自衛隊協力のもと給食訓練・防災訓練)

防災訓練とは…倒壊家屋救出・応急救護・煙体験・水道局講義・消火器体験 を町内会単位で体験します。



自衛隊の協力



給食訓練



避難所運営訓練



応急救護

倒壊家屋救出



水道局講義

校長先生にインタビュー

地域と武中と防災訓練

今回は学校の防災訓練に関して素朴な疑問を校長先生に伺いました。また地域と連携している意味も含め聞いてみたい事を色々尋ねました！

広報 武中は防災学習に力を入れています。どの位前からですか？

校長先生(以下校長) 十三年前からです。

広報 きっかけはありますか？

校長 当時、武中が落ち着かない状況にあったそうです。市民プラザができたばかりの時に、プラザの窓ガラスが割られたりなど、学校内というより地域で迷惑をかけていたと聞いています。学校の力だけではなかなか改善が図れなかったため、当時の校長先生が地域の力を束ねた「地域連携防災ＤＳ」と称した地域と学校が共同体となつて行う避難訓練を実施しながら中学生の健全育成を図っていく防災教育が始まりました。地域の方達と中学生や武中の教職員が顔見知り度を高めることも目的の一つですが、それだけではなく、昼間、有事が起きた時に中学生が地域で役に立つ存在であつてもらおうという願いが防災教育の中には込められています。

広報 なぜ夏、秋と二回実施するのですか？

校長 もともとは六月に行われる学校主催の「地域連携防災ＤＳ」だけでしたがその後、十月にも武連合町内会主催の「地域防災避難訓練・避難所運営訓練」が行われるようになり、中学生の参加依頼が地域や行政からあつたため、本校の防災教育の一環に取り入れて参加をさせていただくようになりました。

広報 九月の防災では二年生だけが訓練現場(武小)に残りましたが、何故ですか？毎年縦割りだったはずですが。

校長 中学生としての発達段階にも二年生がいいと判断して参加しました。また一、三年生は教科の授業時間数の確保ができますし、学年担当の先生がそのまま自分の学年の授業をすることができるので今年度は二年生だけがすべての行程に参加しました。一、三年生も各町内の一時避難地に集合してから武山小学校の避難所に避難する訓練には参加しました。来年度も全校体制で武中は参加していきたくと考えています。

広報 武中の防災学習のウエイトは他の中学と比較してどの様な差がありますか？

校長 「防災教育」は東日本大震災後、文部科学省より推奨されているものです。他に視点を置いた教育を他校では行っていますが、武中は正門を出た外に活断層が走っています。生徒を通じ、学習した事を保護者や地域へ伝える事も考えています。防災教育のあり方を他校と比較するものではありませんが、武山地域は近くに電車の駅がありません。もし、県道などの主要道路が通行できなくなる事を考えると中枢からの物資などが滞ることになり、武山地域が厳しい状況になりかねません。地理的な特性を考えた上で地域で活躍すべきである中学生に防災意識を植え付けることも視野に入れて防災教育が始められたと思います。武中では社会や理科、保健体育、技術家庭科などの教科の授業にも防災を視点に入れた学習を取り入れられていますから武中生は防災意識が高いと思います。また、五月に一年生が行

ったソレイユの丘でのデイキャンプなどでも防災学習を取り入れて楽しみながら学んでいます。また、武中の防災教育は他県にも注目され、昨年十一月には埼玉県川口市内二十三校の中学校の校長先生方が武中に来校され、武中の防災について研修をされました。



広報 なぜ修学旅行は変更されたのですか？北海道も防災学習の目的でしたよね。

校長 生徒や保護者から「なぜ武山には火山がないのに有珠山に防災学習に行くのですか？」「なぜ武山の地域でもできる田植えや農業・漁業の体験に北海道まで行くのですか？」等々よく質問されました。自然災害には地震だけではなく様々な災害がある事も含め、いろいろ説明をしてきましたが、生徒たちや保護者からの素朴な質問を大切に受け止め、教職員で検討を重ねてきました。中学生の発達段階であるとか、防災学習を含めた教育効果などを考慮して、さらに防災意識が高まり修学旅行として生徒たちにとって、より一層思い出に残る場所として、武山地域にも関係する直下型地震による活断層の遺構がある阪神淡路、そして観光のできる京都を来年度から修学旅行場所に決定しました。この決定の際には、武中がねらいつけている修学旅行を複数の旅行会社伝えてプレゼンテーションをしていただきました。旅行会社は「Ｏ」に決定しています。

広報 急な地震！の時の生徒ってどんな感じですか？

校長 もう、放送を入れる前に机の下です。早いです。意識が高いです。

広報 できるんですね、ちゃんと…。

校長 できますー！ただ心配なのは、学校外ですね。

広報 テレビでみたのですが、有事の確率は校外の方が高いそうです。

校長 校外に生徒たちがいる時間の方が一日の中で長いわけで、自宅にいますのであればいいのですが外出しているときに有事があつた場合の指導はとても難しいものがあります。その時にいる場所や時間、状況によってその場で判断しなければいけないわけですから、個々の判断力にかかっているわけです。その際、できるだけ適切な判断ができるようにするためには、防災上の知識が豊富であれば、その時の状況に見合った判断が選択できるのではないかと思います。

広報 次に…地域連携防災デイ(六・七月実施)での町内ごとの実施項目の違いは統一できないのでしょうか？昼食は勿論、体験型の町内もあればお話しのみ町内などなど。取材をしていてちよつと差が大きいかない？と思うところがあります…。

校長 地域の各町内や自治会が高齢化が進み、役員さんの年齢や人数によつてできる事が限られます。従つて各町内や自治会で行う訓練の違いは当然出てきますので、すべての町内が同じ訓練を実施するのは現実的ではないと考えます。

広報 難しいですね…。では、学校から生徒に期待する事を教えてください。勿論防災について。

校長 一番は自分の命と家族を守る。そして役に立つために生きているはず。親も学校もそういう教育をしているのだから、社会貢献をしよう。役に立つ人になるうが、願います。

広報 加えてその親、保護者へ期待する事はありますか？

校長 限られた情報の中での知識はお持ちだと思えます。でも子どもの方が沢山の情報を持っているかもしれない。防災に限らず話すだけでなく、携帯なども最大限利用してコミュニケーションしてください。有事の連絡方法などたくさん子どもとお話してください。

今回お忙しい中、時間を取つてインタビューに応じてくださった渡邊校長先生ありがとうございました。校長先生の言葉からも訓練の大切さ重要性を感じました。

この記事を読んで興味を持った方、いえ持てずとも頑張る我が子を見る為だけでも！是非来年の防災訓練に参加してみたいかがでしょうか？



地域の想い

[地域と連携する武中]

ここでは学校主催の7月に実施した「地域連携防災デー」を取り上げます。

地域と連携し協力をお願いする以上「地域の想い」を会員の皆様・生徒と共有する必要があると感じたからです。この訓練で各町内会・先生方の協力を得て 20 の地域でアンケートを実施しました。皆さんの住んでいる地域がどのような想いで防災を実施しているのか是非読んでください。(人数、規模などの理由によりアンケート回収が出来なかった町内もあります。ご了承ください。)

質問1 何を学んでほしいですか？

■ と回答

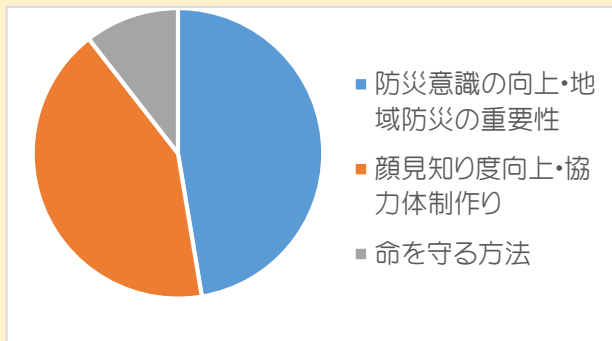
武官舎・武・竹川・上の里・一騎塚・林・須軽谷・御幸浜・小田和

■ と回答

湘南武山・武いこい・一騎塚・ネアポリス・太田和中・湘南武山シーサイド・山科台・長坂

■ と回答

武・武山住宅



質問2 実際に災害が起こった場合の中学生の役割は？

■ と回答

武・武いこい・竹川・南武・上の里・一騎塚・林・須軽谷・ネアポリス・太田和中・小田和

■ と回答

武官舎・武・御幸浜・太田和中・長坂

■ と回答

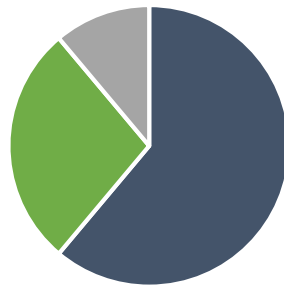
武山住宅・山科台



■ 共助(助け合い)

■ 自助(自分の命は自分で守る)

■ 出来る範囲の事を精一杯



質問1と2に関しては、地域の皆様考え方が似通っていらっしやるようでしたので沢山お答えをいただきましたが、3つの表現に置き換え回答とさせていただきます。

質問3 地域の中学生に期待する事は何ですか？

(多少表現を変えて掲載しております事、ご了承ください。)

湘南武山:高齢化の中、災害時だけでなく普段から中学生の力に期待

武官舎:地元意識。土地に対する気付き。有事には詳細情報の伝達。危険でない限りの人の世話。

上の里:住民に対し土地が大きく高齢化が進んでいる為、有事の際には積極的に手伝って欲しい。

一騎塚:町内での顔見知り度を上げるため、町内イベントへの積極的な参加。

林:地域を忘れず、将来的には戻ってきて欲しい。町内で育った事を忘れない事。

ネアポリス:小学生以下に対して大きな存在で。助け合いの拡大。

太田和中:防災学習をきっかけに、町内との接点増加。町内活動の参加。

湘南武山シーサイド:町内活動の積極的な参加。立派な地域の大人への成長。

山科台:一生懸命勉強して遊んで一人前の大人に。

長坂:小学生の手本になる Jr リーダー的存在。

武:高齢化社会における若さと行動力。

武いこい:町内活動への積極的な参加。地域理解。

武山住宅:町内行事への積極的な参加。

須軽谷:有事の際自主的に動ける成長。

小田和:人との繋がり連携を大事にすること。

須軽谷:有事の際自主的に動ける成長。

南武:声の掛け合い・助け合い。

竹川:災害時「自分たちが頑張る」意識と意欲。

御幸浜:日頃からの地域活動への参加・手伝い。



今回のアンケートにはもう一つ項目がありました。



それは付き添った先生や取材した委員の感想の項目です。

ここでご紹介します。

防災特集 まとめ



・少人数ながら明るい活動。色々な話ができた。(武ハイム 赤谷先生)

・「意欲あるもの」と「そうでない者」の差がある。地域の方々への感謝の気持ちを持ち意欲的に参加して欲しい。(竹川 野呂先生)

・子ども達が町内の方々に愛され、そして大切に育てられている事が分かった。(武山住宅 松永先生)

・中学生がいつも温かく見守られ育ってきた事を実感。また有事の際は自助・共助の意識を高くし、出来る事をしなければならない。これからも地域との繋がりを持つ事が必要であると感じた。(林 慶長先生)

・体験活動により有事の際を体験できた。災害時、自らの命・他の命を守る存在になって欲しい。(須軽谷 東海先生)

・日頃から地域のコミュニケーションがとれている様で「地域の子供を皆で守る」という温かい心を感じた。(御幸浜 笠原先生)

・「安否確認訓練」では各家庭を突然伺うのだが、皆こころよく中学生の相手をしてくれる。地域が子ども達を大切にしているのが伝わった。中学生も「してもらって当たり前」ではなく「ありがとうございます」の気持ちと地域を大切にする大人になって欲しい。(湘南武山シーサイド 渡辺先生)

・困っている下級生に手を差し伸べる上級生を見た。性別・年齢関係なく協力し合う姿が印象的であった。(小田和 広報委員)

・大人数だったので様々な経験と話ができ貴重な体験だった。(武 広報委員)

・少人数だが男女問わず明るく活動していた。地域の方々の中学生に対する「温かい心遣い・期待」がよくつたわる実りある時間だった。(一騎塚 広報委員)



学校と地域の連携する様子、伝わりましたか？

{防災特集} 編集後記

今回の特集はいかがでしたか？「子どもの写真が無い！」「文字が多くない？」など聞こえてきそうです(笑)。大事な事だと感じましたので、文字が増えても伝えます！冒頭で触れていますが有事の際、地域の事を理解し連携した訓練をしておくスムーズな避難・交流(助け合い)ができると思います。命と家族を守るために、是非「地域の想い」を知ってください。

そして地域と中学生の連携の重要性について。大きな災害時の中高生の活躍は皆さんもよくテレビやネットで見かけましたよね？高齢化社会の今、地域の若者の存在はとても大切にされています。地域から離れた場所に通学する高校生より地域で生活する中学生は、有事の際大きく期待されており、学校と協力した訓練が必要なのです。是非お子さんにもこの事を伝えてください。勿論、この「わかたけ」を置いて！(笑) 地域理解を深める為、町内行事にも参加してみてくださいね。

そしてお子さんと話す際には家族に広げ有事の際の連絡法や集合場所など様々な事を改めて話し合ってみてはいかがでしょうか？「家庭の防災」でネット検索すると様々な情報を見る事が出来ます。是非活用してくださいね。

安全・安心と活気のある学校を推進していくため、

武山中学校はスクールサポートチーム(SST活動)を 立ち上げました。

スクールサポートチームとは、武山中学校に関する方と地域の方、関係機関の方が協力して、武山中学校に通う生徒みんなのために様々な活動を行うものです。

目的 すべての生徒が安心して学校生活を送ることができる武山中学校をつくる。

中間報告会

7月19日に、SST活動の成果と課題が話し合われました。あいさつ運動、各学年からの報告、生活指導、学習指導の報告があり、関係関連からの意見交換など、子どもたちの成長や新たな取り組みなどが話し合われました。



校舎内環境整備活動

夏休み期間の8月4日・5日に、教師・スクールサポートチーム・有志の生徒にて、校舎内のペンキ塗りが行われました。地域の方々などが職員・子どもたちに、ペンキ塗りのやり方などを指導して下さい、校舎内が綺麗に見違えました。参加した皆さんに先生・保護者から、カレーライスが振る舞われました。朝からの作業でお腹が空いた子どもたち「お代わりしていいですか?」と保護者にお代わりをもらう姿が見られました。教師・スクールサポートチーム・有志の生徒の方々、朝からの作業お疲れ様です。カレーライスを作って下さった先生・保護者の方、美味しいカレーライスありがとうございました。☆(人"▽")

朝の声かけ運動

朝の校門前で月・水・金と声かけを行っています。月72～76名の方々が参加して下さいます。協力(人"▽")ありがとうございます。



学校にSSTの必要性

昨年度当初から、一部の生徒たちによる学校生活の中で、暴力・妨害・破壊があり、多くの生徒たちが不安感や落ち着きが見られなくなる状況がありました。教職員・PTA・地域の皆様に声かけしながら見守り活動をしていましたが、状況の改善がみられませんでした。そこで学校全体の落ち着きを導くため、SSTの必要性を学校と教育委員会が決断し、本校職員・PTA・市教育委員会・警察関連・市地域安全課などの関連諸機関・地域からは連合町内会・武山コースネット・青少年育成推進員の皆様を構成員とするSSTを昨年12月に発足するに至りました。

これからの課題や取り組み

SST活動だけで学校生活を改善することは勿論できません。さまざまな立場の皆様が、武山中学校の生徒たちのためにみんなの力をひとつに束ねて、一緒になって活動することに大きな意味があり、その活動の姿で生徒たちに語りかけていくことで、生徒たちの健全育成を図るという根底にある理念を大切にしながら3月まで、構成員の皆様には引き続き、ご協力をお願いしたいと思います。

校長 渡邊 克仁より

編集後記

前号は子どもの追っかけ。

今号は「運搬」をテーマしました。防災のタイトルにも入ってますね。

スクールサポートチームやコースネット・防災など

いずれも関係各所の連携なくしては成り立ち

ません。学校や地域の活動

を見、参加するチャ

ンスの無い会員の皆様や

地域の方々にも武中と地

域の「運搬」した活動を

紹介させて頂いたしまし

た。子ども達の生活、

学習に地域との「運搬」

は欠かせません。大事な

ものですよね。

1・2年生の会員の皆様、

是非来年は色々なものに

参加して子どもとの情報

共有や家庭での話題にし

てみてはいかがでしょうか。

もうすぐ冬休み。

メリクリスマス!

そして良いお年を!



7月1日地域学校連携防災
デーの消火訓練